

平成22年度の事業報告書

特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋

第七期事業報告書

I 事業期間

平成22年4月1日～平成23年3月31日

II 事業の成果

第七期の当法人の活動は、前半は組織が縮小され事業の継続も困難なものとなったが、中盤から徐々に職員も増え、事業も活動の幅も広がった。3.11東日本の震災以降、グローバル化の進行する世界のなかで、経済的、物質的な社会観の行き詰まりを感じはじめた年であるが、しかし、当法人の活動は単なるアート振興ではなく、社会に関与し、社会の変革にたちあっていきたいという積極的な姿勢があり、これまでの活動を推進していくことを強く感じている。

今年度のトピックとしては、「インフォショップ・カフェ ココルーム」は3回目のお正月を迎え、向かいの「カマン！メディアセンター」（助成：トヨタ財団）は、二年間の集大成として「アートと地域：社会実験として小さな公共圏生成へ」にまとめた。（発行：大阪市立大学 都市研究プラザ）ささやかなスペースであるメディアセンターは、地域内外の人々が立ち寄る縁側のような機能を果たし、人々のつながりと表現の機会を創出し、自主的な公共空間をうみだしています。

大学との連携もさらに増えました。大阪市立大学 都市研究プラザとの協働はさらに深まり、大学が3月にイタリア・ボローニャの仮面劇団フランナルデ劇団を招聘し、釜ヶ崎に暮らす人々へのワークショップ・成果発表を当法人がコーディネートしました。

明治学院大学のGO WEST、津田塾大学のメディアツアーなどを受け入れ、龍谷大学や神戸大など多くの学生たちに釜ヶ崎フィールドワークツアーを実施しました。

また、インフォショップ・カフェ ココルームと、カマン！メディアセンターというふたつの空間があることから、空間的、物理的、情報的に精度をあげ、より地域に密着した活動となり、地域外の人たちをつなぐハブ的な機能を深めることができました。釜ヶ崎地域をはじめ訪れる人にまちを案内したり、ボランティア活動に興味のある人には他団体を紹介したり、地域内で問題を抱える人たちが訪れたさいには相談機関を紹介する橋渡しの役割など、公益性の高い活動を担っています。これまで果たしてきた活動や地域の窓口機能が商店街の理解を得るようになり、商店街との連携事業も増えていきました。

2008年12月から月に一回欠かさず継続している、「山王ミニ夜回り」（山王地区の野宿者におむすびなどを配る）は、ラッシュ・ジャパンからのサポート終了後も続け、現在も地域の人、遠方から来た人たちとともにアートの工夫をもった夜回りを行っています。野宿者の人数は減っていますが、社会の不安定な状況をうつすようにその数は増加している日もあります。野宿者の問題は、地域に多様な関わりの仕掛けが必要であると感じるため、継続していきます。

今年度も、アートと社会をむすぶ包摂的モデルとしての場作りを行い、分断された個人や閉塞化した共同体を「アート」という手法でエンパワメントし、網の目のつながりを生み出しました。そのさいアートはつなぎ役、媒介の役目を果たし、表現のもつ自律性によって互いの関係性を自在に組み替え、関わりあうことができます。けれど、支援活動に疲弊する現場スタッフの問題、ジェンダーの問題など、これまであまり光のあてられていなかった問題にも目を向けました。「新しい公共」という言葉は、いきすぎた資本主義社会からつぎなる社会を模索する概念ですが、震災以降さらにその重要性を増していると感じます。まさに当法人は、自分たちの生き方、働き方、関わり方のひとつの事例をうみだそうとしています。研究者の関わりもふえており、みずからの言葉を獲得する必要性を感じています。

そしてかわらず、非営利性の高い事業に取り組みつづけることは、運営基盤が脆弱なアートNPOには難しいものです。事業委託や助成金の獲得、低賃金のスタッフ、ボランティアの積極的な取り組み、また多くの応援ネットワークによって運営の基盤を得ることができましたが、制度作りにも着手していく必要性を感じながら、遅々として進みません。けれど、3.11以降は大きく舵をきる機会となっているように思えます。来年度に持ち越すこととしてしっかり考えていきたいと思っています。

III 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 鑑賞及び発表機会提供事業

[事業名] 鑑賞及び発表機会提供事業
[内 容] 「朗読の夕べ」「絵を描く会」「釜ヶ崎句会」ほか
[実施場所] インフォショップ・カフェ ココルーム、カマン!メディアセンター
[実施日時] 年度内で随時実施
[事業の対象者] 一般市民
[収 入] \ 0
[支 出] \ 0

(2) 交流スペース及び市民相談窓口管理事業

[事業名] 交流スペース及び市民相談窓口管理事業
[内 容] 交流スペース「インフォショップ・カフェ ココルーム」「カマン!メディアセンター」の管理運営を行い、市民に開かれた文化活動の場を提供することに務め、アートによるつながりづくりを実施した
[実施場所] インフォショップ・カフェ ココルーム
[実施日時] 毎日10時から22時
[事業の対象者] 一般市民
[収 入] ￥ 3,879,000
[支 出] ￥ 7,235,358

(3) 交流スペース及び市民相談窓口管理事業

[事業名] カフェ事業
[内 容] 交流スペース「インフォショップ・カフェ ココルーム」で、市民に開かれた文化と表現活動の場を提供することに務め、アートによるつながりづくりを実施した
[実施場所] インフォショップ・カフェ ココルーム
[実施日時] 毎日10時から20時
[事業の対象者] 一般市民
[収 入] ￥ 4,881,951
[支 出] ￥ 2,711,532

(4) 調査・研究とその発表の為の放送・出版・ウェブ制作及び流通事業

[事業名] フリーペーパー発行及びウェブ制作事業
[内 容] フリーペーパー「ぼえ犬通信」、「カマメ通信」発行とウェブページ「web cocoroom」を制作・管理・運営することにより、本NPOの事業内容の紹介と調査・研究内容の周知に務めた。
[実施場所] インフォショップ・カフェ ココルーム、カマン!メディアセンター
[実施日時] 「こころのたねとして」(ココルーム文庫)再版 1000部発行
「ぼえ犬通信」23号 1万部発行 「カマメ通信」発行
「web cocoroom」随時更新
メールマガジン「ぼえ犬通信」及び「cocoroomからのお便り」は隔週発行など
[事業の対象者] 一般市民
[収 入] ￥ 24,141
[支 出] ￥ 140,865

(5) 事業名 人材育成、教育プログラムおよびアウトリーチ事業

[事業名] OCA!大阪コミュニティアート事業
[内 容] コミュニティアートを現場の活動を通じ調査をおこなう
[実施場所] 大阪府内
[実施日時] 8月～3月
[事業の対象者] 一般市民

[事業名] ワークショップ人材派遣事業

[内 容] 「詩の学校」と題した詩のワークショップを大阪と京都でそれぞれ隔週開催など。
[実施場所] 関西一円
[実施日時] 4月～3月
[事業の対象者] 一般市民
[収 入] ￥ 1,711,730
[支 出] ￥ 980,253

(6)販売事業（人と街と文化に焦点をおいた地域活性化事業）

[事業名]	販売事業
[内 容]	アーティストの作品、アルコール依存症の人のリハビリ作品等々を販売する。
[実施場所]	インフォショップ・カフェ ココルーム、カマン！メディアセンター および当法人のウェブサイトなど
[実施日時]	不定休の12時から22時
[事業の対象者]	一般市民
[取 入]	¥ 1,613,000
[支 出]	¥ 826,940

(7)クリエイティブ部門事業（アーツマネージメント普及のためのコンサルティング事業）

[事業名]	クリエイティブ部門事業
[内 容]	アーティストの派遣や制作請負いなどのクリエイティブ部門を開設し公共機関や一般企業相手の窓口となる。
[実施場所]	大阪市西成区山王1-15-11
[実施日時]	不定休の12時から23時
[事業の対象者]	一般市民
[取 入]	¥ 12,000
[支 出]	¥ 0

[特記事項]

尚、上記の非営利事業にかかる財源として、

1- 助成金等収入	¥5,129,000
2- 寄付金等収入	¥1,473,569
3- 事業受託収入	¥1,500,000
4- 会費	¥120,000
5- カフェ事業収入	¥4,881,951
6- 事業収入	¥878,871

などを充当することで、管理を含め、事業展開を行った。

IV 社員総会の開催状況

理事会その他の役員会の開催状況

第7回定時総会

[日 時]	2010年6月24日 15時から16時
[場 所]	大阪市西成区山王1-15-11 インフォショップ・カフェ ココルーム
[社員総数]	24名
[出席者数]	18名（内委任状参加者7名）
[内 容]	第1号議案 平成21年度事業報告及び決算 第2号議案 平成22年度、23年度事業計画、予算及び定款変更 第3号議案 役員改選 すべて審議の結果、満場異議なく承認可決。